

1. 活動報告（事務局 記）

- 10月24日 竹炭用孟宗竹受け取り運搬 （西原、田村、原田会員）
- 10月26日 稲こぎ原田宗会員機械提供 （渡辺、田村、吉富匡、原田賢、原田宗、原田マ）
- 10月29日 白引き 善和 末永さん方にて201kg収穫 （原田賢、原田マ会員応援）
- 11月6日 作業は雨のため中止し、今後の活動について会議をしました。
 - 地球温暖化対策ネットワーク協議会主催 菜種の栽培プロジェクト参加募集について説明があり、渡辺会員、田村会員が参加することになりました。
 - 宇部市民パワー祭に参加することに決定しましたが、「つくる会」会員と「観察隊」隊員募集パンフレットを創って、パネル表示とあわせ設置することになりました。
「市民パワー祭は 2006年1月29日～2月5日に開催」
- 11月12日 蕎麦の収穫をメインに会員17名、自然観察隊隊員ほか家族の方11名にて行ないました。そばの収穫量はそれほどではありませんでしたが一つ一つの粒が大きく充実したもので粉にしたときは前回と同じくらいあるのではないかと思います。 また稲田の厩肥散布、猪に荒らされた避け地溝の修復も行ないました。
- 11月12日 里山自然観察隊は里山の暮らしを体験してもらうため、ビオトープで獲れた藁でわら縄やしめ縄作りと、竹細工で竹笛と竹トンボを作りました。隊員13名、保護者11名、会員8名で行いました。竹トンボをうまく飛ばそうと隊員は保護者と一緒になって取り組んでいました。
- 11月13日～21日 蕎麦の乾燥、選別、へた落とし等粉挽き準備 （吉富匡、原田マ会員）

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

- 11月26日 宇部健康福祉センター主催、厚東川、厚狭川、有帆川の環境を考える会御一行
(説明ご案内役：西原、美濃和、原田各会員)

◎ 行事

- 11月25日 餅米精米 （JA山口嘉川精米機にて）
- 12月3日（第一土曜日）の活動 収穫祭Part-1（餅つきほか）
- 12月17日（第三土曜日）の活動 収穫祭Part-2（ソバ打ち、忘年会、蓮根掘りほか）

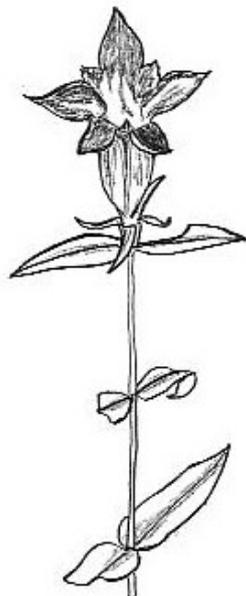
3. ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝

リンドウとヤマジノギク

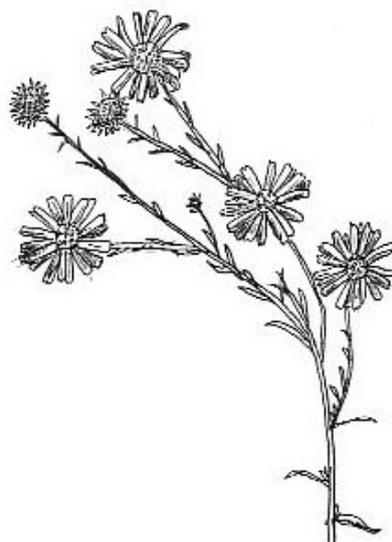
11月も半ばを過ぎると野山は晩秋の装い、草花の姿も少なくなってきました。今回は今の時期に花を付ける草原の草花を紹介します。

リンドウは栽培もされているのでたいへんポピュラーな植物ですが、野山で実際にこの花が咲いているのを見たことのある人は、そう多くはないかもしれません。冴えた青紫色の花色は、まさに日本の晩秋をイメージさせる花ですから、里山にはたくさんのリンドウが咲いていて欲しいものだと思います。かつては田んぼのまわりの草斜面などにたくさん生えていたのですが、そういうきちんと草刈りが為されている場所が減ってきたために、目にする機会はめったになくなりました。本来の生育場所は、湿原と陸地の境目や、地下水が染み出している崖斜面のように、草原の植物と言われている割には意外と湿った場所が好きです。棚田の草斜面は、図らずもリンドウのために人間が用意した場所のようでもあります。ビオトープ周辺では、キキョウが自生している例の場所にかなり大きな群落があり、今年は見事に花を咲かせていました。

ヤマジノギクは薄紫色の野菊です。関東には分布しない植物であるため、実は今年になるまでこれをノコンギクだと思い込んでいました。10月に秋吉台に行った折、ノコンギクにしては花も大きく、葉の形も違う野菊が咲いていたのでこれは変だと思い、改めて図鑑で調べたところ、ヤマジノギクだということがわかりました。紫色の野菊の仲間には、ヨメナ、ノコンギク、そしてこのヤマジノギクがあり、分類学上、属も違います。本当は、この3種は冠毛の長さで区別するのですが、老化が進んだ目ではルーペで見ないとよくわかりません。そこで外見上、ぱっと見て区別するには、葉を見てそれが細いへら状であれば、ヤマジノギクで決まり！ です。それとヤマジノギクは他の2種に比べて花が大きく、コスモスのようにまばらに花を付けます。ノコンギクは小さい花をびっしりとかたまって付け、ヨメナはあまり分枝せず花数が少ない、という違いがあります。生育場所も、ヨメナは水田周りのような湿った場所、ノコンギクは乾いた場所、ヤマジノギクはススキの草原、という具合に異なっています。秋吉台では、このヤマジノギクが一番の優先種ですが、他の場所ではあまり見かけません。唯一例外が、キキョウやリンドウが自生している例の場所です。あの場所は、9月から10月にかけて、キキョウ、サイヨウシャジン、サワヒヨドリ、シラヤマギク、11月はリンドウ、ヤマジノギク、アキノキリンソウ、ワレモコウ、センブリなどが乱れ咲くすばらしいところですが、このミニ秋吉台ともいうべき草原植生は、宇部周辺では他に見たことがなく、きわめて貴重な場所ではないかと思えます。盗掘の危険を避けるために、あえて場所を明記しませんが、ビオトープ会員ならば、すぐあそこだとわかると思います。秋にはちよくちよくこれらの草花を鑑賞しに行くことをお勧めします。



リンドウ（リンドウ科）



ヤマジノギク（キク科）

4. ビオトープ関連 (会員の声) (谷口 浩明 記)

今年4月より、入会させていただきました谷口と申します。

しかしせっかく会に入れていただいたのに、仕事の都合でほとんど活動に参加できておらず、申し訳ありません。

私がビオトープとかかわりを持ったのは実は今年からではなく、平成13年1月から始まったビオトープ造成のときからで、毎週土曜日皆さんと楽しく作業をさせていただいておりました。竹を切り出しシガラを組んだり、杭を打ったり穴を掘ったり、泥や石を運んだり、みんなの共同作業でだんだんとビオトープが出来上がっていくのはとても楽しいものでした。しかしなぜ会にも入らず参加していたのかというと、「体を動かして何かやるのが好きだから」ということと、「作業の後のビールはおいしい」(←本当はこれが一番の理由かも?)というのがその理由で、まったくのフトドキモノでありました。

ビオトープの完成後は、時折、会の行事に参加させていただく程度になっておりましたが、私も自然は大好きなので、今後はいろいろと勉強をして、皆さんの活発な活動に早くついて行けるよう努力したいと思っています。よろしくをお願いします。

今回は 会員にリレーします。宜しく

5. 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

— 11月1日(火)

友達と来ました。すごく好い所だけドイレが無いのは、なあ!!。木が腐りかけているのかわからないけど木の上を渡るときパキッって行って冷や汗が出ました。笑

その友達です。いやあ、私はええと思いますよ。ちょっと心が落ち着くええところと思いまーす。へびがおって少しビビりました ウフフ。

— 11月18日(金)

私はブラジルから来ました。とても素晴らしいことだと思いました。私にとってとてもなつかしい思い出の一つとなりました。ブラジルと比べることは出来ませんが、きれいにせいびされていて、素晴らしいところだなと思い、いつかまたきかいがあったら来て見たいと思います。

6. 会よりの連絡事項

12月17日の蕎麦打ち試食は忘年会を兼ねて行ないますのでアルコールが出ますが、車での参加については飲まれない方と誘い合わせて参加願います。午後は蓮堀りも行ないますので、作業準備や収穫したものを持ち帰り出来るように準備してください。

7. 編集後記

“会員の声”はリレー式でしたが現在、会のほうからお願いしています。現在までどうにか続いてきて面目を保っていると言う感じです。会員の声だけでなく、一般的な考え方や自分の専門分野の話でも投稿をお願いしたく思っています。

東屋の投稿ノートも次第次第に少なくなっています。見学者は減ってはいないが興味が薄れたのでしょうか? それとも我々編集委員の努力のしようが足りないのでしょうか? 記入し易い良いアイデアはないのでしょうか? 最近富みに考えさせられています。

(原田 満洲夫 記)